

特定非営利活動法人

白山の自然を考える会



会報 しらやま
NO.109

【理事長】 石野 洋
〒921-8817
野々市市横宮8-5
つばき通り百番ビル206号

【事務局・連絡先】
深田和人 〒921-8105
金沢市平和町3丁目18-10
C55-23
TEL 076-247-5463

【郵便振替口座】
「白山の自然を考える会」
00700-0-8593

【定 価】 140円



旧五箇山街道から高落場山へ

小西 光子

雨模様の天気、M氏リーダーなら今日の山行は中止だろうと話しつつ、杜の里イオンに8時集合。「今日は大丈夫」とのY女の気迫に皆気を取り直して、車2台で出発。南砺市の国道304号線から林道高清水線に入り、若杉の駐車場に8時40分ごろ到着。若杉集落跡地の碑文を読み、在りし日の五箇山街道を想像した。あちこちの山の登山口に集落跡地があり、過疎化の現実

に胸が痛い。五年後、十年後は、どうなっているのだろう。

8時50分登山口を出発。この日は風の強い日で、林道高清水線を走っている時から杉の枯れ枝が、車のフロントガラスに何度も当たった。登山道に入ってから、風がゴーゴーと吹いており、南寄りの風で見かけほどの冷たさはないが、音がすごい。「どっどど どどうど どどうど どどう」風の又三郎か。9時30分、唐木峠で石畳の旧五箇山街道と分かれて高落場山

へ向かう。若いブナ林が多く、太いブナもところどころにあり、とても美しい。雪国なのに曲がっているブナはあまりなく、ほとんどのブナの幹は真直ぐ伸びている。落ち葉を踏みしめ、長い急登を登り終え、10時55分三差路に到着。左は草沼山へ右は山頂へと続き、我々は山頂へ向かった。

山頂からの展望はすばらしく、砺波平野の散居村の後には宝達山、医王山が、眼下には五箇山の集落が、周りには袴腰山、猿が山、三方山が、遠くには大笠、笈などの白山山系の山々が、また、立山の山並みが見える。

早めの昼食を済ませると、雨がポツリポツリと降り出した。平村の方から上ってきたグループは、気の毒に雨の中の昼食だ。我々は、三差路まで戻り、草沼山方面へ下り、縄が池は経由せずにつくばね森林公園へ向かった。途中、緑に苔むした倒木にナメコが大量に生えており、皆で山の恵みを少しずつ頂戴した。13時半、つくばね森林公園に到着。閑散としたバーベキュー広場の横を通り抜け、20分くらいで夫婦滝に到着。滝は、想像以上の落差があり、30mぐらいか。更に15分くらい歩き、14時10分、若杉駐車場に帰着。

金沢から1時間足らずの南砺市にこんなに変化に富んだ山々が我々を待っている。袴腰山、猿が山、三方山と山スキーを楽しむこともお薦めとか。とりあえず、次回、水芭蕉の時期に縄ヶ池に行きたいものだ。



中部北陸自然歩道案内図



若杉集落跡碑文

オオサクラソウ

サクラソウは早春、ほかに先駆けて咲く花。

仲間のオオサクラソウは6～7月初旬に亜高山地帯に生える。

花びらはどのサクラソウの仲間もよく似て、5枚の花びらの先は浅く割れ、サクラの花そっくり。花の茎は細く長く伸び、葉の形はハウチワカエデに似て、判別しやすい。

富士山にはない。立山や白山の開花時期と場所の確認をし、この花を目的に雪山登山するグループがいるほど、魅力的な花である。

絵と文 金栄 健介氏

※なお、この原稿は2013年1月14日に北陸中日新聞(朝刊)に掲載されたものを、著者及び北陸中日新聞の許可のもと転載しています。

<お詫び>

前回108号の会報で、「高橋先生お別れの会に参加して」のなかで、宮本健一氏の漢字が間違っておりました。ただし、宮本憲一氏です。ここにお詫びし、訂正させていただきます。

トラスト地ナメコ汁大会 with 富士ゼロックス端数倶楽部 事務局長 深田和人

11月8日、恒例のナメコ汁大会が行われました。今回、以前からの念願であった、富士ゼロックス端数倶楽部の方々との交流会という形で実現したのは、非常に喜ばしいことです。ご存知のように、富士ゼロックスおよび富士ゼロックス端数倶楽部からは、毎年5万円ずつ、計10万円の寄付をいただいております(端数倶楽部に入っている社員は、毎月の給料から1000円未満分を基金として寄付し、その一部を当会がいただいています)。これまでに戴いた金額は相当なものになり、その感謝を込めて、10年ぶりくらいに実現することができました。

前日7日に、当会4名端数倶楽部8名で御前荘に宿泊、交流を深めました。四国お遍路巡りをしている方、海外の世界遺産に行っている方等、個性派そろいの面々で、話は尽きませんでした。勿論、自然保護に対しても造詣が深く、夜遅くまで活発な議論が交わされました。

8日は、あいにくの小雨でしたが、家族連れを含めて総勢20名ほどが参加。足元に注意しながら、ナメコが生えていそうな枯れ木を探しました。私の下見では、ほとんど見つけられず(単に見つけるのが下手という話も)、「今年は市販ものか」という意見まで出ましたが、いい意味で予想は外れました。見つければ歓声、1本1本丁寧に採取し、何とか食べる分は確保できました。

1時間ほどの後、恒例の当会会員中野さんの息子さん夫妻、お孫さんお住まいの住宅のスペースをお借りしてナメコ汁を作り始めました。天然ものの採りたてということで、ナメコについてゴミを洗い、土のついた柄をはさみで切って、お湯の沸いた鍋へ投入。さあ、味噌汁の出来上がりです。雨も上がり、思い思いに味噌汁を食べていました。炭火による焼きナメコも大好評。

端数倶楽部の方々をはじめ、みなさん満足していただいたようでした。

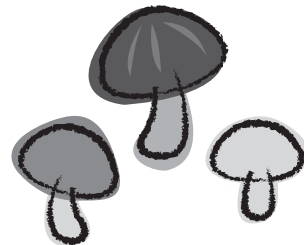
ナメコ汁大会をはじめて4年。ナメコが生育する枯れ木も、そろそろ限界にきているという印象です(昨年までは、自然の恵みを“ほんのちょっと”の感覚で採取しても、文字通り“山分け”でした)。次年度、どういう形にするかを、検討していきたいと思います。



交流会にて



端数倶楽部の皆さんと一緒に



2015年度チブリ登山道整備を終えて

北市 正

チブリ登山道整備（石川県より受託の別山市ノ瀬道維持管理業務）は2015年度も多くの実地参加と事務的協力により、無事に業務を終えました。参加、協力を頂いた皆様には、本当に感謝しております。ここに、今年度の活動の総括をさせていただきます。

今年度の実施回数は7回、参加者は延べで76名でした（表1）。参加者の内訳は会員が26名、一般2名、労山48名です。参加者数や実施回数は天候に左右されるため、過去6年の推移は表2の通りとなっています。

今年度活動の特徴として—①労山参加日を集中作業日として集約②労山への事前説明会を実施③外来種調査を実施—があります。

かねてより、作業内容に応じた参加者数の確保は大きな課題でした。従来、労山各会には担当月が割り当てられ、実施回数当たりの参加団体は基本的に1会でした。実施回数毎に参加者が得られる半面、参加者が各月に分散しており、まとまった作業が出来ない弊害もあります。そこで今年度、集中したい「下草刈り込み」と「登山道整備」について集中作業日を設け、労山2~3団体を集約して参加して貰う事にしました。

実際には7月4日に下草刈り込み作業日として2団体（計画の6月28日が雨天中止のため順延、当初の3団体より減）、9月27日に登山道整備作業日として2団体の集約作業となりました。参加団体集約により、下草刈り込みは実施日のみで猿壁～避難小屋全区間を作業出来（稜線部は除く）、登山道整備も最近手を掛けられなかった水場周辺の浸食やぬかるみへの手当が可能となりました。

この実現には、労山への事前説明会を6月13日に開き、各会と一層の意思疎通が図られた点が大きかったと思います。労山

会員も世代交代が進んでおり、近年入会の会員ではチブリの活動とクリーン登山の区別もない方も多かったようです。活動の目的や理念を分かって頂いた事で、作業もスムーズに進んだように思えます。一方で、参加者側の率直な意見も頂き、これは今後の活動の参考となるものでした（議事録は表3）。

2010年から始めた、稜線部の植生調査と、調査結果に基づく稜線部刈り込み方法は、2015年3月の環境省主催「白山サミット」でも採り上げられ、高い評価を得る活動となっています。これに加えて、今年度はチブリ登山道の外来種調査を実施しました。外来種に関しては、他会や個人の方が各々活動されています。当会としては、これまでの実績を活かし、まず現状の外来種侵入、繁殖状況を確認し、その経緯や傾向を見極めた上で除去活動を実施し、数年後に調査を実施して効果を確認する方法を採用します。

今年度も当会主催で開かれた「白山登山道ミーティング」（11月21日18:30~、金沢勤労者プラザにて）では当会や労山、環白山保護利用管理協会、環境省他21人の参加者を得、チブリでの活動について活発に論議が交わされました。この中で、来年度も作業集中日を設けて実施する事、外来種対策を始める事が確認されました。具体的な日程は現在調整中のため総会資料や次号会報での紹介となりますが、次年度は今年度より充実した活動となるように努力します。多くの方の参加を、お待ちしております。

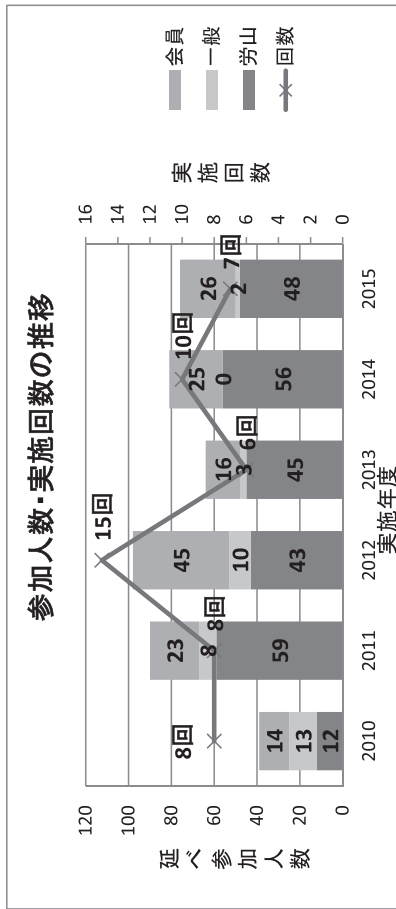


(表1)

2015(平成27)年 ナブリ尾根登山道整備事業計画・参加人数

所属	作業内容	実施予定日 (○:計画/●:実績)							総計
		6/7(日)	7/4(土)	7/5(日)	7/26(日)	8/14(金)・15(土)	9/27(日)	10/18(日)	
	考える会で偵察		巡検 下草刈込 (作業集中日)	下部下草刈込	巡検	巡検 登山道整備 (作業集中日)	巡検	7	
	市ノ瀬～猿壁	○●	○/×	○/●	—	—	—	—	
	猿壁～下の水場	○/●	—	—	—	—	—	—	
	下の水場～水場	—	—	—	—	—	—	—	
	水場～覗き	—	—	—	—	—	—	—	
	覗き～稜線手前	—	○/●	—	—	—	—	—	
	稜線～避難小屋	—	○/●	—	—	—	—	—	
	避難小屋～中間道標	—	○/●	—	—	—	—/●	—	
	中間道標～御舎利山	—	—	—	—	—	—	—	
	御舎利山～別山	—	—	—	—	—	—	—	
	倒木処理	○/●	—	—	—	—	—	—	
	植生喪失箇所立入禁止看板	○/●	—	—	—	—	○撤収/●	—	
	避難小屋雨樋	○/●	—	—	—	—	○撤収/●	—	
	避難小屋清掃	○/●	○/●	—	○/●	○/●	○/●	○/●	
	外来種防止プラン設置	—	—	—	—	—	○撤収/●	—	
	登山道巡視(避難小屋まで)	○/●	○/●	—	○/●	○/●	○/●	○/●	
	登山道巡視(別山まで)	—	○/●	—	○/●	○/●	○/●	○/●	
	下の水場	—	—	—	—	—	○/●	○/●	
	上の水場	—	—	—	—	—	○/●	○/●	
	水場上崩壊箇所	○/●	—	—	—	—	○/●	○/●	
	植生調査(稜線)	—	—	—	—	○/●	—	—	
白山の自然を 考える会	会員参加人数	7	1	2	2	5	3	6	
	非会員参加人数	0	0	0	0	—	1	1	
	労山	—	23	—	—	—	15	10	
	参加者計	7	24	2	2	5	19	17	

(表2)



(表3)

⑥/13事前説明会での要望事項と回答

【要望事項】

要望事項	回答
1 登山道整備には必ず考える会の同行が欲しい	同行するのが適当であり、そうします。同行出来ない場合は中止します。 作業終了時にも簡単にミーティングを実施して意見を聞きます。 また、各会からの報告書に書かれた内容を精査し、県へ提出する報告書へ盛り込みます。 全作業終了後に、「登山道ミーティング」を開き、参加者の意見を次年度に反映出来るようにします。
2 労山の一般登山者としての意見を汲み取って欲しい	
3 (上記と関連して)避難小屋上部に整備必要な箇所がある	7/4に確認します。
4 南縦走路は地元の方が大切に整備している。	今年度の作業集中日は、一般募集もして多くの人に白山の登山道整備に関わってもらい含みがある
5 南竜やチブリ小屋に啓蒙のポスターや看板を設置しては？	た、 南竜は経営移譲時に検討します。チブリはこれまでの経緯があるため、やれる範囲内で実施します。 実情は写真撮影時のみ着用しているが、倒木処理等、実際に危険がある場合もある。
6 ヘルメットは本当に必要か？	状況に応じて対応して下さい。

シリーズ「白山麓の民謡」第1回

加藤 正現

「かんこ踊り」

河内の奥は 朝寒いとこじゃ
御前の風を吹きおろす
(返し)

ア御前の風を 午前の風を
御前の風を吹きおろす
(ア・モータリ・モータリ・モータリナ)

加賀の白山 白妙なれど
雪は降るまい六月は
(返し)
雪は降るまい文月葉月
歌うて 舞うて お山へ登りゃ
雪の間に間に花が待つ

河内の奥に煙が見える
いねや出て見や霞か霧か
御前の山が焼けるのか
(返し)
ア御前の焼けの煙とあらば
ののが手を引け なんぼをおぶせ
そしておんじの 裏山へ

向いな山を 光るもな なんじやいな
お月か 星か ほとらの虫か
今来る嫁のたいまつか
(返し)
ア今来る嫁のたいまつならば
しゃしゃげて灯せ やさ男

踊れや踊れ 皆出て踊れ
踊らにや明日は悔しかる
(返し)

ア踊らいても明日は悔しこたないわいな
明日から山な草とりじゃ



- ※「河内」＝白峰からさらに上流の赤岩、市ノ瀬一带
- ※「御前」＝白山の主峰御前が峰
- ※「いね」＝母親・妻
- ※「おんじ」＝山のかげ
- ※「のの」＝祖父
- ※「なんぼ」＝幼児・一番末の男の子
- ※「しゃしゃげて」＝差し上げて

白峰を代表する民謡であるが、元来市ノ瀬地方に起こったものである。伝承によれば、養老元年泰澄が白山に登った際、なかなか降りてこないのを心配して村人が六万山に迎えに登った。折から夕暮れ時、遂に泰澄が下山したのを喜んだ村人が、手を振り、足を踏みならして迎えたのが「かんこ踊り」の起源である。とりわけ、三題目を見て頂きたい。白山が火山であり、万が一の際どのように避難すればよいのかが歌われているのである。昔人の知恵や教えは、これからも守り伝えていかなければならない。

白山ジオトレイルについて

事務局長 深田和人

昨年3月、環境省から「国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取扱いについて」という通達がありました。以下はその一部です。

- ・特別保護地区内を通過するコース設定は避けるよう指導すること。ただし、部分的に特別保護地区を通過する際に、競争性を生じさせない歩行区間の設定（以下略）
- ・第1種特別地域においても、（中略）特別保護地区と同様に取り扱うものとする。

一昨年から行われている白山ジオトレイルのコースには、白山国立公園の特別保護地区、第1種特別地域が含まれています。当会は、昨年一昨年と、環境省白山自然保護管理官、白山市に対し、白山をコースに入れさせないよう指導していただきたいという旨の要望書を提出しました。昨年は、上記通達を踏まえ、一步踏み込んだ要望にしました。

昨年の白山ジオトレイルの開催後、白山自然保護管理官に話を伺ったところ、「主催者は、説明会等において白山では走らないことを強調している」、「当日、コースに行ってみていたが、選手は走っていない」ということでした。7日間を完走するにはかなりの重装備が必要になり、それを背負った状態では登山道は走れないという要因があるようにも思いますが、一定の評価をしてよいのではと思います。

1月21日現在、主催者のHPによる今年度の要項では、コース（参考：2015）として「白山市吉野谷セミナーハウス → 移動・歩行区間 → 白山室堂 白山室堂 → 移動・歩行区間 → 白峰林西寺」となっており、時間は設定されていません。この点に関しても一応の前進かと思いますが、当会の主義主張はあくまでコースそのものから白山をはずすこと。これからも要望書の提出をしていきたいと思っています。

一方で、個人レベルのトレイルランについては、何の規制もありません。チブリ登山道にテントを張り（もちろん国立公園法違反）、そこを拠点にして走っている人がいるという話を耳にしました。会報107号にも書きましたが、トレイルランに関する書籍が何冊もあり、チブリ登山道を紹介しているものもあります。脆弱な登山道を保護するため、国立公園内は走らないという文化を白山から発信していけたらと考えています。

事務局短信

11月6日（金）	運営会議	7名
7日（土）	富士ゼロックス端数 倶楽部と交流会	4名
8日（日）	トラスト地ナメコ汁 大会	
14日（土）	生物部会自然観察会 高落場山	5名
21日（土）	登山道整備ミーティ ング 当会より	7名
27日（金）	松木自然保護管理官 と懇談	4名
30日（月）	忘年会	8名
12月2日（水）	川口自然環境課長と 懇談	4名
4日（金）	運営会議	5名
9日（水）	総会講師三谷幹雄氏 と打ち合わせ	2名
14日（月）	事務局会議	2名
19日（土）	白山国立公園整備計 画についてヒアリ ング	2名
1月7日（木）	チブリ登山道管理業 務委託の業務完了 通知書を受理	
8日（金）	運営会議	7名

(続) 山路きて 深田百名山完登記
第5回

「震災の地へ」

室谷 博子

日かげになった火山礫堆の中腹から
畏るべくかなしむべき砕塊溶岩(ブロック
レーバ)の黒けれども
ここは空気も深い淵になっていて
ごく強力な鬼神たちの棲みかだ
宮沢賢治「春と修羅 第一集 鎔岩流」

賢治の詩を読むと決まって心が波立ち、
惑乱するのはなぜなのだろうと長く思っ
ていた。賢治が持っていて私に欠けている
もの一鉢物の知識と時空を振り切る特異
な宇宙感覚の基底にひそむ法華経への傾
倒一なのだろうか。

賢治は生涯に幾度となく岩手山(岩手県
2038m) < 5 1 > に登ったという。

上りに4時間半を要して9合目に達し、
黒く脆い砂礫の道を私は、御鉢巡りと称し
て一周したが、その荒々しい風景が、貞享
3年(1686)と享保16年(1732)
の大噴火と爆発の結果だということに、当
時、気が付いてはいなかった。

深田久弥が紹介した賢治の詩「岩手山」
は即物的で、二重式火山の“黒い”火口壁
の中の二つの火口湖、お釜と御苗代は、明
礬を溶け込ませ“白く澱んだ”水を湛えて
いると歌っていたのに、妹とし子の死の悲
嘆を味わった後の詩「鎔岩流」には“畏れ”
“深い淵”“鬼神の棲家”と形容句が畳み
込まれて凄味が漂う。

手元の資料は、岩手山の最新の噴火は大
正8年(1919)、平成16年には弱い噴
気が認められたと伝えている。

JR 山形駅を早朝出発し、蔵王連峰を稜

線通しに歩けば、その日のうちに、福島県
二本松を経て安達太良山の山麓、岳温泉に
辿り着くことが出来る。

2011年3月11日、巨大な地震と巨大な
津波が東関東と東北の太平洋沿岸部を襲
った。原子力発電所の壊滅が加わった。

キャンピングカーを駆って M は震災の
地へ入り、排泄物の処理も含め食住を自ら
賄って働くボランティア魂を発揮したし、
W や Y も全国的な救援組織を頼って早々
に現地入りした。非力な私に何ができるの
か。

ともかく行ってみよう。

かくて、夜行バスとロープウェイと登山
と、またバスと電車を乗り継いで蔵王山
(山形県 宮城県 1841m) < 9 3 > と安
達太良山(福島県 1700m) < 9 4 > 行と
なった。2011年秋、台風が来ていた。

ロープウェイは冬に備えて点検を終え
たらしい。乗客は二人だけ。ガスが立ち込
め、周りの景色がわからない。わずかに足
元にオヤマリンドウの秋色。熊野岳山頂に
は蔵王山神社があって、火山岩で組まれた
石垣の境内に斉藤茂吉の歌碑があった。

「陸奥(みちのく)をふたわけぎまに聳
えたまふ 蔵王の山の雲の中に立つ」
斉藤茂吉は山形が生んだ大歌人だ。

久弥に「鉄錆色とでも言うか、お釜の
水は妖しく濃い緑色、」と、言わせた火口
湖=御釜は、馬の背の西側にあるはずだが、
立ち込めるガスに阻まれて全く見えない。
天保4年(1833)の爆発の跡だという。
蔵王の噴火の始まりは70万年前からだ。

ゴンドラリフトの客も、濃い霧の中へ歩
き出したのも私一人だった。高村光太郎と
智恵子が、みちのくの安達が原の二本松の
松の根方に立って仰いだ安達太良山の稜
線が、うっすらと光を帯びて浮かび上が
った。

阿多々良山の山の上に
毎日出ている青い空が
智恵子のほんとの空だといふ

仙女平の分岐から、鉄山の岩肌も流れ落ちる一条の滝も眼前にあった。その真下には広大な溶岩台地が広がっている筈だ。明治33年(1900)7月には、西斜面沼の平に新火口が生まれ、硫黄採掘所の全焼で死者72人が出た。

安達太良山の激しさを、光太郎は知っていたのだと思う。

下山。バスを待つ間、岳温泉の共同浴場を使った。白濁した酸性泉は温く、冷えた体をあたためてくれた。人懐かしさで、湯船の向こうの母娘らしい入浴客に、金澤から来たことを告げて“いかがですか?”と震災後の暮らしを問うても、口数は少なかった。

二本松の駅舎に、久しぶりの再会なのかこもごも、命を落とした友人たちの情報を語り合う人々もいた。窓外に広がる田には黄色く稲穂が実っていたが、放射能セシウムの影響はなかったのか。

東北と北陸は、ともに湿潤な風土から多くの詩歌人を生んだが、内に秘めた激しさでは、私たちはどうていかなわぬ。

深田久弥「日本百名山」
草野心平編「宮沢賢治詩集」
高村光太郎「智恵子抄」
中央防災会議編「災害史に学ぶ一火山編一」
「自然災害 危機の対策」昭文社

文中<>は登頂順序である

出かけてみませんか

○かんじきハイキング

～早春の息吹を求めて～

日時 2月20日(土)

集合 午前8時55分 医王山見上峠

参加費 500円(保険料含む)

連絡 室谷

090-4320-8871

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

○館裏山自然観察会

～春の詩パート27～

日時 4月17日(日)

集合 午前8時半 白山比咩神社。

参加費 500円(保険代含む)

持ち物 雨具 弁当 飲み物

連絡 高橋

090-1319-8182

○釈迦岳自然観察会

日時 5月11日(水)

集合 午前6時 白山比咩神社

山頂は必ずしも目標にしてはおらず、
ブナ帯～オオシラビソ帯を歩くのが主
目的です。

参加費 500円(保険料含む)

連絡 室谷

090-4320-8871

杉浦さんの思い出

栗山 宏人

杉浦さんの思い出は尽きません。自然保護活動に限らず市民正義感の鏡のごとくあちこちと様々な運動の場でお見かけする姿に勇気づけられたものです。僕の勝手な想像ですが安保法制が強行採決され米軍との合同が進行する国の姿に悲痛な思いを抱かされていたのではと思います。

それにしても雨合羽と長靴で飄々と動かれる服装にこだわらない姿が思い浮かびます。様々な活動に旺盛に好奇心を示され署名をどんどん集められていた軽やかさに驚かされます。僕にははとでもまねのできないことです。特に印象深かったのは北海道の土幌トンネル建設反対に北海道自然保護協会が主催した現地ツアーでのこと、何せ一周500km近い行程で一同退屈している。路傍に見かけた車外の花について「アヤマカカキツバタか、どう違うのか」と同乗している植物学の先生に質問し、先生が丁寧に答えられる場面やトンネルへの取り付け道路工事現場で黒曜石だと教えられると嬉々として手頃な大きさのものを土産に拾われた姿が思い出されます。僕はさらに小さな欠片を拾ったのは言うまでもありません。現在僕は運営会議から離れていますが、出かけていた時はいつも「遠い小松からご苦労様」とやさしく声を掛けてくれました。

観察会、学習会やブナの植林などで一緒にされた会員の方はそれぞれ杉浦さんの貴重な思い出をお持ちのことでしょう。杉浦さんの姿から学んだことをどこに置き忘れたのか、病気を言い訳に僕は健康管理と称し家の付近をうろうろ散歩しながら白山の山並みを楽しむ日常です。小松の空の騒音は否めませんが平地にも季節織りなす自然が感じられます。

※当会会員の杉浦幸子さんは、2015（平成27）年11月11日、89歳で亡くなりました。

会員情報

*新入会員	熊野 盛夫	
*カンパ		
山つ村田	森 洋	平澤卓郎
尾西 洋子	浅野 紀子	高島 豊
崎田 律子	荒井 重紀	林 二郎
俵 京子	垣本 哲夫	小沢 広和
南 ますみ	谷内 明・洋子	
根岸 達雄	尾崎 健二	宮本 由美子
窪田 美代子	栗山 宏人	西村 昭
喜多 宗喜	米野 恭正	大濃 純子
井澤 厚		

*通信

- 「いつも 素敵な計画、ありがとうございます。楽しみにしています。いつかは？ 何とか、元気な内に参加したいものです」尾西 洋子
- 「カンパはほんの気持ちです。いつも、ありがとうございます。」浅野 紀
- 「いつもお世話様です」林二郎
- 「チブリ尾根登山道整備や楽しそうな山登りの案内いただいているのに、いろんな行事に重なり、まったく参加できていません。今年度こそは参加したいです」岩田 美穂子



ホタルブクロ

第27回総会のご案内

○日 時 3月13日(日)午後1時30分より

○場 所 金沢勤労者プラザにて

○記念講演(午後3時頃より)

演題 「白山火山について考える」

講師 三谷 幹雄氏(石川県地学教育連絡会「石と川」の会事務局長)

※当会の1年間の活動内容などを協議します。また、記念講演については、会員以外の方でも聴講できます。ぜひ、お誘い合わせご来場ください。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

高落場山自然観察会より(11/14)



ブナの森の恵み(高落場山)



高落場山ブナ林



高落場山ブナ林を登る



高落場山山頂にて

※なお、1・2ページの関連写真です。